

項目	運営方針	取組予定	実績報告
(1) 地域の現状把握	地区包括及び各圏域の状況、課題、ニーズ等を把握するとともに、地区包括が地域の状況等を把握できるように支援する。	地域の特性や現状を的確に把握、分析し、対策を講じるための地域診断について研修会を開催。実際に地域診断を実施する際には個別に講師に相談できる機会を設け、重点目標の実施に反映できるよう支援する。	全体研修会の開催（5月） 地域診断の意義や基本的なアセスメント手法について理解を深める全体研修会を開催。研修終了後、各地域包括支援センター（以下、各包括）において、実際の地域診断に向けた取り組みを開始した。 個別相談会の実施（7月～8月） 各包括の取組状況、既存データの有無、課題整理の現状等の実情に応じ、専門の講師による個別相談会を実施。データ収集方法や情報把握の仕方など、各包括の課題に合わせた具体的な助言・支援を行った。 地域診断の具体化と進展（9月～） 夏季までの研修および個別相談会を経て、各包括における地域診断の取り組みがさらに具体的に進展した。 地域特性に応じた具体策の検討 10月以降は、地域診断によって得られたデータや課題の分析結果を基に、地域特性に応じた「地域ケア会議」の開催など、具体的な手法の検討を進めた。 今後の方向性 今後は、得られた地域診断の結果を地域の関係機関や住民と共有する機会（連絡会や懇談会等）の設置を想定しており、地域全体で課題を共有し、地域づくりに向けた共通認識の形成を図っていく。
(2) 地区包括の業務の効率化	効率化が見込める業務、事務を把握し、改善に向けた取組を推進する。	令和6年度に引き続き、介護予防支援業務へのAIを活用したケアプラン作成支援システムの導入について検討を進める。 また、地域ケア会議等の報告書を見直し簡素化するなど、業務負担の軽減を図る。	介護予防支援業務へのAI導入に向けた検討と、地域ケア会議の事務負担軽減を進めることで、包括職員がより専門的な業務に専念できる環境の整備を図った。 介護予防支援業務におけるAIケアプラン作成支援システムの検証 取組内容：昨年度に引き続き、AIシステム導入の可能性を検討するため、まずは基幹型包括の職員が試験的に検証を行えるよう、環境整備と調整を進めた。 成果と今後：基幹型職員による試験的検証を通じて、AI活用の効果と課題を明確にしました。現在は検証結果を基に、本格導入の可否、導入スケジュール、および費用対効果に関する具体的な検討を進めている。 地域ケア会議関連様式の集約・簡素化による負担軽減 取組内容：会議の運営負担を軽減するため、事前準備から会議後のまとめ、振り返りまでを同一シートで行える「集約型様式」を新たに作成した。 成果：AI活用による業務効率化の可能性と運用上の課題を抽出することができた。この検証結果を基に、次年度以降の実証に向けた運用の土台を構築していく。
(3) 地域課題への対応	地域ケア会議の推進をはじめ、地域課題への対応を強化し、更なる地域づくりの促進を図る。	外部講師により研修会を開催し、地域ケア会議の果たす目的や役割、機能などを改めて市と包括で理解し会議開催ができるよう会議開催の具体的な取組について共有し、重点目標の取組につなげる。 研修で学んだ内容を基に、各包括で地域ケア会議の開催回数が増加し、より具体的な地域課題の抽出と解決に向けた議論が活発に行われた。これらの取り組みを通じて、地域包括支援センターが地域課題解決の核としての役割を強化した。	市と地区包括支援センター（以下、各包括）が地域ケア会議の目的や役割について共通理解を持ち、地域課題への対応力を強化するための取り組みを推進した。 外部講師を招いた実践的研修会の開催（4月・8月） 取組内容：会議運営の共通基盤を構築するため、年2回の合同研修会を開催した。研修では「地域を捉える視点」や「集積した情報の可視化」、さらには「開催に向けた事前準備」や「ファシリテーターの役割と具体的な会議運営手法」について実践的に学び、各包括が地域ケア会議の重要性と意義を再認識する機会とした。 地域ケア会議の活性化と地域課題解決力の強化 成果：研修での学びを実務に反映させた結果、各包括における地域ケア会議の開催回数が増加した。これにより、個別事例から具体的な地域課題を抽出し、解決に向けた多職種連携による議論がより活発に行われるようになった。